平成 31 年２月 17 日発行

創立 40 周年　大町山岳博物館友の会　第　178　号

ゆきつばき通信

ニホンライチョウ一般公開について

山岳博物館学芸員 栗林勇太　指導員 宮野典夫

《期　日》　平成 31 年 3 月 15 日（金）～
《時　間》　11 時～15 時（予定）
《場　所》　山岳博物館 付属園　（昨年 3 月に完成したライチョウ飼育施設）
※期日、時間についてはライチョウの状態に応じて延期、変更となる場合があります。

公開にあたって

今回の一般公開は、生体をご覧いただくことにより、ライチョウへの関心を高め、保全活動についてより多くの人々に知っていただく教育普及の効果が高いこと、他の飼育園とともに展示予定の空間が広い場所であり、ライチョウにとって良い環境が整うことなどから、環境省が開催した「ライチョウ保護増殖事業検討会」において決定されました。

山岳博物館では

大町山岳博物館では平成 16 年 2 月に最後の個体が死んで以来、実に 15 年ぶりの展示となります。

公開初日（3 月 15 日金曜日）は、午前 11 時、正午、午後 1 時、午後 2 時に生体を見ていただきながら博物館のスタッフが「ライチョウスペシャルガイド」を行います。ライチョウの特徴やこの時期の生態、保全の取り組みを 10 分程度で解説する予定です。申し込みは必要ありませんので、当日、ライチョウ舎の前に集合してください。ライチョウの状態によっては、公開日の延期や公開時間の短縮などもあります。この場合は教育普及映像「未知なる鳥　ライチョウの四季」（2018 年制作）をご覧いただきます。

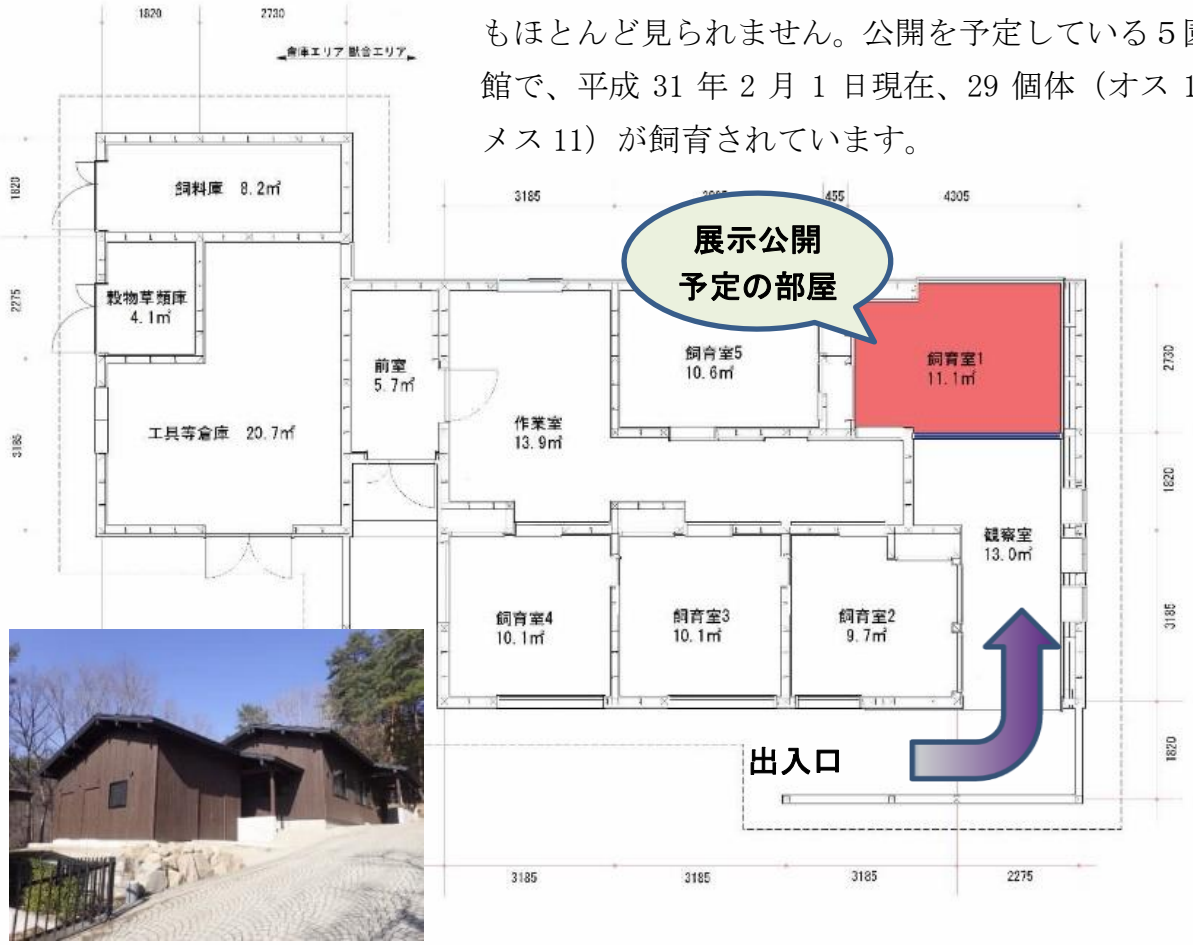
後にご案内していますように、3 月 17 日（日）午後 1 時から 2 時 30 分まで「ライ

チョウ公開記念特別講演会」を予定しています。講師はライチョウの研究者（東邦大学理学部訪問研究員）の小林篤さんです。小林さんは信州大学中村浩志名誉教授のもとで、乗鞍岳におけるライチョウの生態研究と生息域内保全に取り組み、多くの成果をあげられました。これらのホットな話題を「ライチョウを守る－ここまでわかったライチョウの生活」と題して講演をしていただきます。なお、定員を先着 80 人とさせていただきました。定員を超えた場合は立ち席でのご聴講になることをあらかじめご理解ください。

ライチョウ生息域外保全とは

環境省と日本動物園水族館協会は希少種の扱いについて協定を結び、ライチョウの野生復帰を見据えて、野生復帰に資する個体群を動物園などの飼育下で形成することを目ざしています。野生復帰の方法などは検討を始めたばかりですが、飼育下で解明しなくてはならない課題が多く、今から準備を進めているのです。

ライチョウ保護増殖事業は５年が経過し、個体数が増加していることから、飼育繁殖技術は一定の成果を上げており、過去の大町で課題になっていた感染症による障害もほとんど見られません。公開を予定している５園館で、平成 31 年 2 月 1 日現在、29 個体（オス 18 メス 11）が飼育されています。



※3 月 15 日を目安に公開予定の園館は、東京都恩賜上野動物園、富山市ファミリーパーク、那須どうぶつ王国、いしかわ動物園、大町山岳博物館の 5 園館です。

行 事 の ご 案 内

ライチョウ公開記念特別講演会　共催事業

「ライチョウを守る －ここまでわかったライチョウの生活－」

ライチョウ研究者、東邦大学理学部訪問研究員　小林　篤さん

《期　日》　3 月 17 日（日）　午後 1 時 00 分　～　2 時 30 分
《場　所》　山岳博物館　講堂
《参加費》　無料
《対　象》　小学生から一般まで　（含　長野県ライチョウサポターズ）
《申込み》　申し込み不要　定員 80 人（当日先着順）
《内　容》　乗鞍岳におけるライチョウの生態研究と、生息域内保全としてのケージ保護による保全の成果について。

今回は、ライチョウの公開を記念して、野生のライチョウの生態で新たに分かったことや、生息域内での保全の取り組みを紹介し、ライチョウが生活する高山の状況を理解いただき、ライチョウ保全の意義と現状を伝え、ライチョウを取り巻く環境やライチョウの保全を考える機会とします。

《問合せ》　市立大町山岳博物館　電話（0261）２２－０２１１

※付属園でのニホンライチョウの公開時間は、午前 11 時～午後 3 時までの 4 時間のみです。講演終了後は混雑が予想されます。講演前の見学をおすすめします。また、車は乗り合わせ、霊園への駐車をお願いします。

平成 31 年度山博友の会　総会・講演会

講演会　共催事業

「チベット・シュエラプカンリ初登頂と高所順応」

長野県山岳協会特任理事　杉田浩康氏（長野県山岳総合センター所長）
長野県山岳協会副会長　　西田　均氏（大町山岳博物館指導員）

《期　日》　4 月 21 日（日）　午後 3 時 00 分　～　5 時 00 分
《場　所》　山岳博物館　講堂

《演　題》　「チベット・シュエラプカンリ初登頂と高所順応」

1)西田　均氏　「シュエラプカンリ初登頂とチベット事情」

2)杉田浩康氏　「高所登山と高所順応」

3)西田・杉田氏　「標高 5000mの空気を体験してみよう」〔高所疑似体験〕

《参加費》　無料

《申込み》　要事前申し込み　4 月 19 日（金）まで　定員 50 人（申込先着順）

参加希望者の氏名・住所・電話番号を FAX（0261-21-2133）または

Ｅメール（sanpaku@city.omachi.nagano.jp）でご連絡ください。

《内　容》　平成 30 年 9 月、長野県山岳協会と中国・西蔵（チベット）登山協会による友好兄弟協定締結 30 周年を記念して行われた、初登頂のシュエラプカンリ峰登山に関する講演会を開催致します。今回、チベット登山協会（ＣＴＭＡ）と合同登山に至った経緯から始まり、チベットの特殊事情やチベットの風土や習慣に関しても併せて紹介いただきます。

また登頂に至る計画から登山の経路や経過などについて報告致します。併せて、今回の山行にあたっては短期間に高所に順応し、高所順応を成功させるための新たな手法の開発と確立なども課題として取り組みました。そうした取り組みの実践についても報告をさせていただくとともに、当日は来館された方々にできるだけ多く実際に高所疑似体験をしていただこうと考えています。

友の会総会

講演に先立ち 31 年度総会を行います。友の会の活動をより有意義にするために、ぜひ多くの方にご出席いただき、意見を交換いただきたいと思います。

《期　日》　4 月 21 日（日）　午後 1 時 00 分　～　2 時 45 分

《場　所》　山岳博物館　講堂

《内　容》　平成 30 年度の事業報告・決算報告　平成 31 年度の事業計画・予算案

役員改選　　その他、会員からの提議に関する協議・決議

※総会後、18 時より養老の瀧（信濃大町駅前）で懇親会を予定しています。講演会申し込みにあわせて申し込みください。参加費 4000 円程度予定。

【報告】

烏帽子の会

活 動 報 告　十観山（じゅっかんざん）（1,284m）＜湯川コース～横手キャンプ場コース＞

《期　日》12 月 8 日（土）　《天気》曇り～晴れ　山頂の風冷たし
《参加者》17 名

《コース状況：その他周辺情報》
湯川コース；林道入り口あたりを工事中であったが、歩行には問題なし。危険個所も急登もなく、高齢者にやさしい登山道。時期的に花もなく、たまに青木の町や周辺の山々が見える遊歩道。

《感想》　いつまでも一緒に登ろう！
長野県に初雪予報の日、老々男女 17 名は元気に田沢温泉駐車場を出発しました。これと言って変化のない、その分、安全な登山道。裸木の山は明るく、足下は厚い落ち葉のじゅうたん。時折見える青木集落の景色や遠くに浅間山など眺めながら、「烏帽子の会」で十観山を独り占めし、間延びした隊列で進みました。
巨大まんじゅうのような頂上に着いた時は、昨夜降った雪の名残が梢から風に舞って我々を迎えてくれました。それぞれに日なたに腰をおろして昼食。風が冷たいので、少し早めに切り上げて下山することにし、Mr. Nの「すぐ、近い」という強力な助言をうけて横手キャンプ場コースを下りることにしました。登山道は短かったけれど、コンクリの林道が長く、後方の故障者リスト入りの数名にはとても長く感じられました。Uさん、Yさんが歩調を合わせて付き合ってくれたことに感謝です。最後のショートカットを無理やり突き進んだMさんは、動物除けの網を破り、手には大事そうに大きな石まで持ってヤブから出

て来ました（なんの石やら）後続部隊がそろって駐車場に辿り着いた時、頂上で 75 才の反骨精神を表彰して頂いたばかりの老骨Ｓは、「言った事が違う」と Mr. Ｎに噛みつきました。Ｎさんは、車のタイムとごっちゃになっていたと皆に陳謝。Ｓは「信じた私も悪かった」と二人して頭を下げて一件落着。

体のどこかに少々具合の悪いところがあっても、「烏帽子の会」なら大丈夫。支えあって仲間と楽しい登山ができる。お互いに遠慮せず、いつまでも共に登ることのできる山の会でありますように。

なお、これまで車を出していただいたＷさんは、家族構成の変化に伴い車を買い替えるそうで、今回が最後のワゴン車となります。車の入れ替えを今日まで延ばしていただいたご配慮に深謝します。

《コースタイム》

大町市役所 7：30 集合 7：40 ⇒ 8：40 田沢温泉駐車場・トイレ・準備体操 9：10 ⇒ 10：00 登山口 10：10 ⇒ 鞍部下 ⇒ 11：15 頂上・昼食 12：00 ⇒ 13：50 駐車場 ⇒ 14：05 やすらぎの湯 14：50 ⇒ 青木道の駅（30 分）解散　大町市役所 16：00 ころ着

（みよちくりん　報告）

活 動 報 告　冬の黒斑山（くろふやま）（2,404m）〝トーミの頭まで〟

《期　日》2 月 2 日（土）　《天気》晴れ
《参加者》8 名

《コース状況：その他周辺情報》

入山者が多く、コースはトレースがしっかりついていて迷うことはなかった。踏み固められているところが多かったため、アイゼンが適した。下りの樹林帯はスノーシューが良かったかもしれない。ほかの登山者は登りではアイゼンと一部登山靴のみであったが、トーミの頭ではスノーシューにも多く出会った。おそらく中コースから上った登山者はスノーシューが多かった模様。トーミの頭手前は、片側が浅間外輪山のカルデラ壁の切れた断崖頭稜線の急登になっていて慎重を期した。ほかは危険なところはなく、樹林帯が多い。

《感想》

冬の浅間山はプリンに粉砂糖をまぶしたようだ。白い筋が放射状に延びる特徴的な

表コース車坂山付近

雪化粧は、「これが浅間山」と山好きな人ならだれでもわかる姿を見せてくれる。今回計画した浅間山第一外輪山の最高峰である黒斑山（2404m）は、絶好のビューポイントになる。山行の案内に本格的な冬山と銘打ったためか、参加者は８名とやや少なかった。１月 12 日の下見には別に２名が同行した。浅間山は活火山であり、わが国でも活動的な火山として知られる。現在は小康状態であり、昨年の８月にレベル１まで規制が引き下げられて、火口から 500mの前掛山まで行けるようになった。今が安心して近づけるチャンスだ。

大町市役所に７時に集合、２台の車に分乗して麻績 IC から高速道路、小諸 IC 下りて一般道の浅間サンラインを経由して高峰高原まで、約２時間とやや長い車旅なった。高峰高原へは広い車道が山の南斜面に付けられ、除雪されて舗装がほとんど出ていた。登り切った車坂峠が登山口になり、ビジターセンター横の駐車場に車を止めた。下見の時は駐車場がいっぱいだったが、今回は雪が多くなりスペースが狭くなっているにもかかわらず、車は少なかった。峠から先が高峯高原で、冬はアサマ 2000 スキー場となる。その名のとおり、すでに標高約 2000mの高さとなっている。高峰高原は群馬県妻恋村となり、車坂峠が小諸市との堺になる。

槍の鞘手前、噴火避難シェルターで風をよける

駐車場でアイゼンを付け、登山者カードを出して登山開始（9：30 出発）。登山口で登山コースが２つに分かれるが、展望の良い表コースを登る。トレースがしっかりできていて迷うことはない。まばらな樹林帯のなだらかな広い尾根を進む。変形した唐松を見ると風が強い山であることがわかる。30 分ほどで車坂山と呼ばれる平坦なピークに達する。ここでは佐久平や八ヶ岳が一望でき、富士山も見える。少し下って、今度は前よりは急な登りとなる。雪上

トーミの頭への急登

には様々な獣の足跡が多い。何の動物か、どっちへ進んだかと想像力を働かせる。テンやイノシシの大きな足跡もあった。樹林帯が多く、積雪は 1m以上あると思われるが、吹きさらしの尾根では岩が出るくらいで、アイゼンも小気味よく効く。一部にアイゼンの調子がいまいちで、何回か調整してだまかし高度を上げる。浅間山が見え出すと間もなく噴火時の避難シェルターがある。中に入って避難時の感触を得る。今日は全く危機感がないのは当然。すぐに「槍の鞘（または赤ぞれの頭）」に出る。ここまで来ると浅間山のほぼ全貌が見える。下見の時はここで大休止を取ったが、今回は風が強いため先を急ぐ。前方にトーミの頭への急峻な登りが見え、あれを登るのはちょっと躊躇の気持ちが走る。いったん下り、鞍部で中コースと合流する。いよいよ先ほどためらった登りに入る。急ではあるが思ったより簡単に登れ、トーミの頭へ到着する。時間はすでに 12 時を回っていた。時々突風のような強い風が肌を刺すが、まさしく絶景の浅間山は、雲一つなくその姿を惜しみもなく現わしてくれた。風が強く、急速に体温が奪われてしまうため、短い昼食を取り、下山することにした。下りは中コースを下った。ほとんどが樹林帯の中であるが、開けた日当たりのよい斜面では「雪まくり」をして楽しんだ。1 時間 20 分ほどで駐車場に到着。雪の中を歩くのは結構疲れるものだった。

トーミの頭で浅間山をバックにパチリ

帰路には、浅間山周辺の特徴である鉄分で茶色くなった温泉の一つ「天狗温泉浅間山荘」でゆっくり汗を流し、冷たい甘酒や暖かいミルクもおいしかった。温泉で一緒になった前掛山へのパーティも風が強くて頂上手前で引き返したという。

今回は天候が良かったが、天気がくずれれば厳しい山行になる。悪天候の経験も必要であり、幹事の一人は今回体験出来ればとひそかに考えていた。

頂上まで行けなかったが、みなよく頑張った。拍手!!!

煙なく　静けさ不気味　あさま山

《コースタイム》
大町市役所 7：10～～～7：50 麻績 IC＝＝＝8：20 湯の丸 SA8:30＝＝＝8：40 小諸 IC～～～9：05 高峯高原車坂 9：30------表コース（アイゼン直しなど数回）-----11：45 槍の鞘---------12：10 トーミの頭（昼食）12：45 下山---------12：55 中コース入り口--------14：05 高峰高原車坂登山口 14：30～～～15：00 天狗温泉浅間山荘（入浴）16：00～～～17：40 大町市役所

（宮澤洋介　報告）

サークル烏帽子の会へのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

ボランティアサークル

冬眠状態のボランティアサークルですが、毎月博物館の常設展スペシャルガイドに参加申し込みして少しずつスキルアップをしています。

さて、巻頭にもありますように、この春よりライチョウの一般公開が始まりますサークルではゴールデンウィーク期間中に、ライチョウ舎において解説ボランティアを計画しています。ぜひ、この機会にボランティアサークルに登録し活動いただければと思います。

ボランティアサークルへのお問い合わせは、事務局（電話：0261-23-6334）まで

常設展スペシャルガイド

前号でご案内した「常設展スペシャルガイド」に、研修も兼ねて運営部・ボランティアサークルで参加しています。流れでご案内いただいたり、ワンポイントをご案内いただいたりと、解説者のキャラクターそれぞれに解説いただいています。なお３月 17 日に予定しておりました本年度最後のスペシャルガイドは、ライチョウ公開記念特別講演会開催のため中止となりました。

本の紹介・・・

改訂版　視覚でとらえるフォトサイエンス　地学図録　（数研出版）　2018/12/1

教科書の副読本みたいな本です。図鑑よりはずっと文字が多い。カラー版で 200 頁あまりあって、910 円（本低価格）。今年度、地学の行事に苦しんだ方々へ。天文・気象も入っているよ。　（ＴＭ）

40 年のアルバムより

右　1979 年 6 月 24 日　山菜と自然観察会
（ゆきつばき 3 号より）

鹿島～大谷原で開催されました。福島融先生と清沢由之先生のご案内により昆虫や植物の観察を行いました。お昼はご飯を炊いてお肉を焼いて・・・40 名ほどの参加者があったようです。

フォークダンスを楽しむ

左　1987 年 5 月 9-10 日　小鳥の声を聞く会

山博のジープの前で友の会名物トン汁や天ぷらのおもてなしの用意をしています。70 名ほど参加しました。

ゆきつばき通信編集室より

40 周年の年もはや過ぎ去ろうとしています。今号は総会のご案内、３月 15 日から始まるニホンライチョウの一般公開のご案内などになります。総会では事業・行事へのご提案ご意見ご希望をお願いします。なお、40 周年記念の文集「ゆきつばき」は年度内成作、総会配布の予定で鋭意編集中です。もうしばらくお待ちください。　（丸山卓哉）

山岳博物館の「山と博物館」は季刊となりました。次号は 3 月 26 日の発行を予定しています

山博ページ　http://www.omachi-sanpaku.com/
友の会は、山博の情報発信のために山博ホームページの維持に協力しています

会費のご案内
会費振替口座番号　00550－2－24194　加入者名　山博友の会
ファミリー 4,000 円　　個人 3,500 円　　学生 2,000 円
※ファミリー会員とは、同居または扶養家族をさします。学生会員とは、小学生～大学生までをさします。
４月が年度切り替えとなっています。中途入会の場合は年度当初にさかのぼって出版物等を配布します。
賛助会員につきましてはお問い合わせください。

ゆきつばき通信　第 178 号
発行／大町山岳博物館友の会　　平成 31 年 2 月 17 日
〒398-0002　長野県大町市大町 8056-1
大町山岳博物館内　山博友の会事務局　　Tel/Fax 0261-23-6334